**聖霊降臨節第7主日　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　2023年7月9日**

**「神に従うか、人に従うか」**

**詩編118編22節**

**118:22 家を建てる者の退けた石が／隅の親石となった。**

**使徒言行録4章1～22節**

 **4:1 ペトロとヨハネが民衆に話をしていると、祭司たち、神殿守衛長、サドカイ派の人々が近づいて来た。**

 **4:2 二人が民衆に教え、イエスに起こった死者の中からの復活を宣べ伝えているので、彼らはいらだち、**

 **4:3 二人を捕らえて翌日まで牢に入れた。既に日暮れだったからである。**

 **4:4 しかし、二人の語った言葉を聞いて信じた人は多く、男の数が五千人ほどになった。**

 **4:5 次の日、議員、長老、律法学者たちがエルサレムに集まった。**

 **4:6 大祭司アンナスとカイアファとヨハネとアレクサンドロと大祭司一族が集まった。**

 **4:7 そして、使徒たちを真ん中に立たせて、「お前たちは何の権威によって、だれの名によってああいうことをしたのか」と尋問した。**

 **4:8 そのとき、ペトロは聖霊に満たされて言った。「民の議員、また長老の方々、**

 **4:9 今日わたしたちが取り調べを受けているのは、病人に対する善い行いと、その人が何によっていやされたかということについてであるならば、**

 **4:10 あなたがたもイスラエルの民全体も知っていただきたい。この人が良くなって、皆さんの前に立っているのは、あなたがたが十字架につけて殺し、神が死者の中から復活させられたあのナザレの人、イエス・キリストの名によるものです。**

 **4:11 この方こそ、／『あなたがた家を建てる者に捨てられたが、／隅の親石となった石』／です。**

 **4:12 ほかのだれによっても、救いは得られません。わたしたちが救われるべき名は、天下にこの名のほか、人間には与えられていないのです。」**

 **4:13 議員や他の者たちは、ペトロとヨハネの大胆な態度を見、しかも二人が無学な普通の人であることを知って驚き、また、イエスと一緒にいた者であるということも分かった。**

 **4:14 しかし、足をいやしていただいた人がそばに立っているのを見ては、ひと言も言い返せなかった。**

 **4:15 そこで、二人に議場を去るように命じてから、相談して、**

 **4:16 言った。「あの者たちをどうしたらよいだろう。彼らが行った目覚ましいしるしは、エルサレムに住むすべての人に知れ渡っており、それを否定することはできない。**

 **4:17 しかし、このことがこれ以上民衆の間に広まらないように、今後あの名によってだれにも話すなと脅しておこう。」**

 **4:18 そして、二人を呼び戻し、決してイエスの名によって話したり、教えたりしないようにと命令した。**

 **4:19 しかし、ペトロとヨハネは答えた。「神に従わないであなたがたに従うことが、神の前に正しいかどうか、考えてください。**

 **4:20 わたしたちは、見たことや聞いたことを話さないではいられないのです。」**

 **4:21 議員や他の者たちは、二人を更に脅してから釈放した。皆の者がこの出来事について神を賛美していたので、民衆を恐れて、どう処罰してよいか分からなかったからである。**

 **4:22 このしるしによっていやしていただいた人は、四十歳を過ぎていた。**

 **私たちが物事の判断をするときの基準は色々あります。そのことが自分のやりたいことなのかどうか、人に喜ばれることなのかどうか、神様の御心に適ったことなのかどうか、そのことをすることは良いことなのか悪いことなのか、またはそのことで自分は損をするのか得をするのかなど、様々な判断基準がある中で私たちはその時々に考えて祈りながら物事を判断して毎日の生活を送っています。**

**そして、人として生きていく中でどうしても避けられないのがその判断基準の一つにあるのが周りの人にどう思われるかということです。わかりやすくいえば、「人目を気にする」ことであり「人の評価を気にする」ということです。私たちはそれぞれに立場や置かれた環境がありますから、そうやって人目を気にして人の評価を気にして、それを判断基準に物事を決めるというのはいたしかたないところがあると思います。反対に「私は誰の目も誰の評価も気にしない」と言って我が道を行く人は豪快で良いのかもしれませんが、私たちはなかなかそうはなれないですし、またそういう人は協調性がないとか社会性がないとそれはそれで評価されてしまうのです。**

**ですから、「私が本当にしたいのはAという行動なんだけどそれを選んだら周りから何を言われるかわからないだからBを選ぼう」なんていうのはよくある話です。そしてその判断に後悔してみたり、ストレスを感じてしまうこともよくあることなのです。**

**今日の聖書箇所で時の権力者たちから捕まえられて、裁判にかけられたペトロが彼らからどう思われるかなんてまったく気にしないどう評価されるかなんて全く気にも留めずに「足の不自由な男性を癒されたのはあなたたちが十字架につけて殺し、神が死者の中から復活されられたあのイエス・キリストである。このイエス・キリストの十字架と復活による救いしか他に救いはない」と非常に大胆に力強く語っている姿には驚きすら覚えてしまうのです。「あの弱虫のペトロがこんなに大胆に語るなんて」と私たちはあのペトロの姿を知っているだけにそう思うのです。**

**イエス様がファリサイ派や律法学者など時の権力者たちに捕らえられ、不正な裁判にかけられ十字架に掛けられていく中でペトロを始め弟子たちは皆逃げてしまいました。そしてペトロは大祭司の中庭で他の人たちに交じって焚火にあたっていました。そんなペトロを見た女中や他の人から「おまえもあいつの仲間だろう」と問い詰められた時、ペトロは「私はあの人を知らない」と3度もイエス様のことを知らないと言ってイエス様を裏切りました。それは「人目を気にする」「人の評価を気にする」姿の極みといってもいいでしょう。自分もイエス様の仲間だと思われると自分の身が危ない。本当は知らないなんて言いたくないけど、自分の身の可愛さについつい「知らない」と言ってしまったのです。ペトロは激しく泣きました。イエス様の言葉を思い出して自責の念に駆られて非常に激しく泣いたのです。イエス様の言葉に従えなかった自分の弱さに泣いたのです。**

**今時の権力者を前にして力強く十字架と復活の愛を証しているのはそのペトロです。あの弱虫ペトロが聖霊に満たされて語り、さらに「もう二度とイエスの名によって語ったり教えたりするな」と言われても「神に従わないであなたがたに従うことが、神の前に正しいかどうか、考えてください。わたしたちは、見たことや聞いたことを話さないではいられないのです。」（19・20節）とさらに力強く反論し、時の権力者たちからどう思われるのかどう評価されてどう裁かれるのかを恐れることなく大胆に語るのがかつての弱虫ペトロなのです。かつての面影は全くありません。まるで別人のようです。**

**それどころか時の権力者たちの方が周りの目をまた評価を気にして行動しています。21節にはっきりこう書いてあります。**

**「議員や他の者たちは、二人を更に脅してから釈放した。皆の者がこの出来事について神を賛美していたので、民衆を恐れて、どう処罰してよいか分からなかったからである。」**

**彼らが恐れたのは神様ではありません。民衆です。神を賛美する人々が自分たちのことを思うかを恐れたのです。人目を恐れて人の評価を気にしたのです。その上でどうしていいのかわからなくなり脅して釈放するしか自分たちの保身ができなかったのです。**

**ここで私たちは忘れてはいけないことがあります。それは時のユダヤ人の権力者たちもまた神様を信じる人たちなのです。私たちは彼らがイエス様と敵対する姿から神様から離れた人たちのように思ってしまいますが、彼らも同じ天地の造り主なる父なる神様を信じて、自分たちは常に神様の前に正しい判断をしていると信じて日々歩んでいるのです。自分たちこそが神様から選ばれたユダヤ人のエリートなのだという特権意識を持って物事を判断し、また人を裁いているのです。ですから彼らが本当に自分たちは神の前に正しい行動をしていると判断するならば、民衆を恐れる必要はないのです。ただ神様のみを恐れてペトロたちがイエス様の十字架と復活を語ることが間違ったことをしていると判断するのであれば、その判断が神様に従うことなのだと信じるのであれば彼らは民衆を恐れる必要はないのです。胸を張ってペトロたちを罪に定めて裁けばいいのです。でもそれができない。彼らは神様に従わずに人に従って行動をしているのです。その姿は滑稽でもあります。**

**かつては神様に従わずに人に従っていたペトロです。そのために大きな後悔と自責の念に駆られていた弱くて小さなペトロでした。時の権力者たちと立場は違えど同じように人を恐れて歩んでいました。**

**十字架の死から復活されたイエス様はそのようなご自分を裏切り弱くて小さくて泣き虫のペトロを決して拒まれませんでした。私を知らないと言った者など弟子としてふさわしくないと拒むことは決してなさいませんでした。イエス様は3度イエス様のことを知らないといったペトロに「わたしを愛しているか」と3度お尋ねになり、「はい」と答えるペトロに「わたしの羊を飼いなさい」と改めて弟子として召し出してくださったのです。弟子としてふさわしくない者であるにも関わらずイエス様は変わらず愛して下さり弟子として豊かに用いて下さったのです。イエス様はペトロだけでなく他の弟子たちと40日に渡って一緒に食事をし十字架と復活の福音を語り続けて下さったのです。**

**「こんな弱い私をイエス様は愛して下さり弟子として用いて下さる。十字架と復活の福音の愛を宣べ伝える尊い働きに用いて下さっている。」ペトロはこの愛を語らずにはいられないのです。それが20節のペトロの言葉です。「わたしたちは、見たことや聞いたことを話さないではいられないのです。」こんなに大きな愛を大きな恵みを話さないではいられないのです。誰に止められても語るなと言われてもどんなに脅されても話さないではいられないイエス様の愛によって今生かされている喜びです。その喜びを語るのです。**

**ですから今のペトロの判断基準はイエス様の愛です。こんな自分を愛して下さっているイエス様の愛に沿うことか沿わないことか、そう祈り考えると自ずと答えは出てくるのです。**

**私たちはそうはいっても時の権力者たちのように人を恐れて判断をしてしまいます。神に従わずに人に従うこともやはりあります。しかし、イエス様は人を恐れてイエス様に従えなかったペトロを愛して下さっています。弱く小さな私たちをペトロと同じように愛し、私たちに十字架と復活の愛による救いを与えて下さっています。「こんな弱い私をイエス様は愛して下さり弟子として用いて下さる。十字架と復活の福音の愛を宣べ伝える尊い働きに用いて下さっている。」だからこそ私たちも見たことや聞いたことを語らずにはいられないのです。私を愛して下さっているイエス様の十字架と復活の愛を語らずにはいられないのです。イエス様の愛が私たちの判断基準なのです。イエス様の愛に沿うことなのか沿わないことなのか。イエス様だったらどうするのか。イエス様の愛を私たちの心の中心にして宣べ伝えていきたいのです。それは言葉だけでなく行いでも私たちはイエス様の愛を現わしていきましょう。愛されて生かされている喜びを証をしていきましょう。**